



本校の授業改善に向けた視点					
指導内容・指導方法の工夫	教育課程編成上の工夫	校内における研究や研修の工夫	評価活動の工夫	家庭や地域との連携の工夫	幼保小連携・小中一貫教育の視点
・主体的・対話的で深い学びの実現に向けた指導を工夫する。 ・授業のねらいを明確に示し、板書、ノート指導、発問、振り返りを丁寧に行う。 ・話し合いでの学習形態について毎時間、ペア・グループ・学級全体を効果的に取り入れ聞く力、話す力が身に付く授業を実践する。	・算数で習熟度別による個に応じたきめ細かい指導をする。 ・朝読書や読書旬間、読書活動を推奨し、読書の習慣化を図る。 ・第3～6学年において、1単位時間15分の国語モジュール学習を週3回行い、漢字等の言語活動を行う。	・「深い学び」を重点とし、学び合う力の育成をより一層図りながら、人権課題の取組を中心に研究授業を全学年実施する。 ・研究手立てを日常的に行う。 ・9年間を見通した人権尊重教育の課題改善カリキュラムの実践的研究を通して改善を進める。	・指導の振り返りを学習のつなぎに生かす学習過程を重視する。 ・授業や諸活動の中で随時適切な評価を加え、評価と指導の一体化を目指す。 ・めあてと振り返りを設定し自己評価・相互評価力の向上を図る。	・学校公開、各種便り、ホームページ、保護者会、PTAや地域の活動等を通して、情報の発信・受信を確実にする。 ・学校支援コーディネーターを中心に地域人材バンクを活用し、地域を生かした学習活動を推進する。	・1年生入門期のスタートカリキュラムを編成実施する。 ・9年間を見通したカリキュラムに基づいた学習内容を工夫する。 ・家庭学習の継続的・系統的な指導を進める。(自主学習ノート等)

授業改善策の検証方法
○自己評価シート〔自尊感情測定尺度(・自己評価、自己受容・関係の中での自己・自己主張、自己決定)〕 ○教師の観察から(学校経営計画「職務目標・評価チェック指針」) ○学力調査結果についての分析 ○児童・保護者へのアンケート(学校評価) ○学校評議員会での学校経営計画にかかわる評価